

「デザイナーが身につけておくべき知財の基本」シラバス（90分×15パート）

区分	パート	講義概要	時間配分	到達目標
Ⅰ 導 入	1	デザインとビジネス ●これからのデザインの役割を考える ●デザイナーの役割 ●デザイナーと知的財産 ●学生と知的財産	90分	①デザインの役割、職業としてのデザイナーの役割、企業活動におけるデザインの活用領域について考えを整理できる。 ②デザインプロセスの各段階と知的財産権に関する事柄を関係づけることができる。
	2	デザインと知的財産権 ●知的財産法とは何か ●知的財産と経済社会 ●産業財産権と著作権 ●なぜ知的財産権制度を学ぶのか	90分	①知的財産が財産的価値をもつ情報であることを説明できる。 ②知的財産を保護する重要性を技術の発達に結びつけて説明できる。
Ⅱ 産 業 財 産 権	3	技術的アイデアを守る デザイン創作と発明・考案 ●知的財産法の役割 ●特許制度の概要 ●特許権の活用	90分	①知的財産権制度の存在により、自分の創作を適切に保護するだけでなく、他者の創作を尊重しなければならないことを説明できる。 ②特許制度の概要を説明できる。
	4	カタチを守る デザイン創作と意匠（1） ●意匠制度の仕組み ●最近の意匠登録例 ●意匠の類似とは ●意匠権の活用事例	90分	①意匠制度の概要を説明できる。 ②意匠権で保護され得る製品デザインを列挙できる。
	5	カタチを守る デザイン創作と意匠（2） ●出願人のニーズに適合した意匠制度 ●先願意匠の一部と同一または類似の後願意匠の保護除外 ●意匠登録を受けることができない意匠 ●他人の登録意匠等との関係 ●商品戦略と意匠戦略 ●その他の法律によるデザインの保護 ●創作デザインの寄託	90分	①部分意匠制度、関連意匠制度、秘密意匠制度の意義を説明し、これらの制度を利用するのが望ましいデザイン開発の仮想事例を述べることができる。 ②デザインマネジメントの概要について、知的財産権に関する事柄を含めて説明できる。
	6	ブランドを守る デザイン創作と商標 ●ブランディングと商標 ●商標制度の概要	60分	①商標制度の概要を説明できる。 ②不正競争防止法上の規制行為、営業秘密に関する留意事項について概要を説明できる。
		●不正競争について ●営業秘密について	30分	
	7	事例に基づくディスカッション ●演習	90分	仮想事例に対して、パート3～6で学んだ産業財産権に関する知識を適用し、課題解決のための提案ができる。

「デザイナーが身につけておくべき知財の基本」シラバス（90分×15パート）

区分	パート	講義概要	時間配分	到達目標
Ⅲ （調 査） 産 業 財 産 権	8	権利を調べる（1） 調査手法の基礎知識 ●意匠公報 ●意匠検索 ●画像を含む意匠の検索 ●意匠検索演習 ●商標検索 ●商標検索演習	90分	①意匠公報がいつ発行されるか、どのような情報が掲載されるかを説明できる。 ②意匠検索を行う目的を説明できる。
	9	権利を調べる（2） 権利調査のシミュレーション ●演習	90分	独自の製品デザインを考えた上で、パート8で学んだ特許情報プラットフォーム（J-PlatPat）を利用した検索に関する知識を適用し、先行する意匠権の調査ができる。
Ⅳ 著 作 権	10	表現を守る デザイン創作と著作物（1） ●著作権制度の仕組み ●著作物とは ●著作者とは	90分	①創作されたものが著作物と認められるための要件を説明し、著作物の例を列举できる。 ②著作権と意匠権の保護対象の違いについて説明できる。
	11	表現を守る デザイン創作と著作物（2） ●著作権とは ●著作物の保護期間	90分	①著作権の概要を説明できる。 ②複製権や譲渡権といった著作権の支分権について、その概要を説明できる。
	12	表現を守る デザイン創作と著作物（3） ●著作者人格権とは ●例外的に著作権者の許諾なしに著作物を利用できる場合 ●パロディ等と著作権制度	90分	①著作者人格権の概要を説明できる。 ②例外的に著作権者の許諾なしに著作物を利用できる代表的な例を列举できる。
Ⅴ そ の 他 の 契 約 ・ ル ル	13	クライアントと契約する ●契約において留意すべきこと ●コンペにおいて留意すべきこと ●海外のクライアントとの契約において留意すべきこと	75分	①デザイナーがクライアントと円滑な関係を築くために、どのような点に留意して知的財産の取扱いに関する契約、秘密保持契約を結ぶのが望ましいか説明できる。 ②デザイナーが企業と契約する場合、自身が不利な立場に置かれないように下請法の規制が及ぶことを説明できる。
		●下請法とは	15分	
	14	デザイン創作に関するその他のルールを知る ●肖像権とは ●パブリシティ権とは	45分	①肖像権とパブリシティ権の違いを踏まえて、創作に人物を用いる場合の留意点を説明できる。 ②安全性や信頼性に関係する製造物責任法や景品表示法が、どのようにデザイン創作活動に関係するか説明できる。
		●製造物に欠陥があった場合：製造物責任法 ●商品やサービスの品質、内容、価格の表示：景品表示法	45分	
Ⅵ 総 括	15	デザイン創作と知的財産の今後 ●デザイン創作と知的財産（復習） ●知的財産を巡る新しい流れ（1） オープンデザイン ●知的財産を巡る新しい流れ（2） クリエイティブ・コモンズ ●デザイン創作と知的財産の今後	90分	①オープンデザインやクリエイティブ・コモンズについて、それらの概要を説明できる。 ②デザイナーが自身でデザインビジネスを展開する上で、知的財産に関するどのような知識が有用か自分の考えを整理できる。